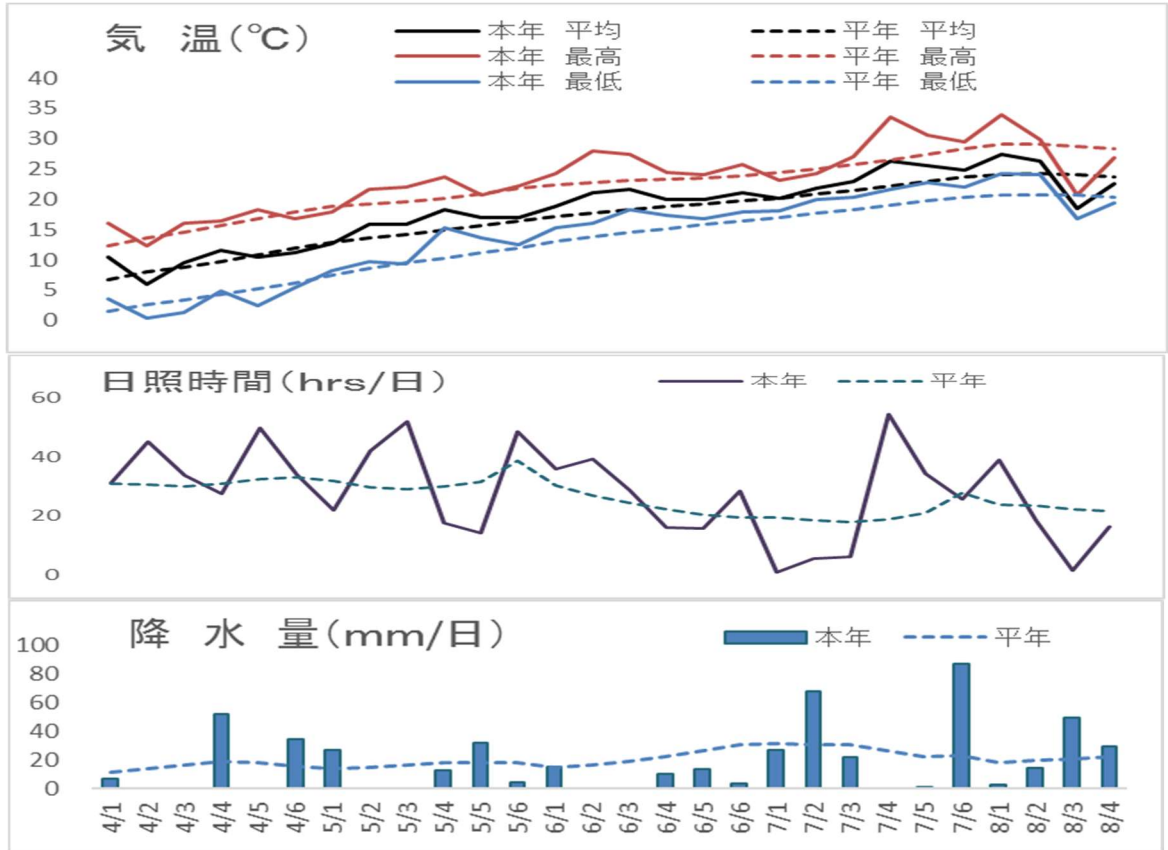


～出穂期は平年より4日早い7月30日 適期刈り取りの準備を～

1 令和3年の気象(古川アメダス)



◆東北地方の1か月予報(8月21日～9月20日までの天候見通し)【気象庁 HP より】

- ・ 天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ曇りや雨の日が多い。
- ・ 気温は、高い確率 50%，平年並みの確率 30%，低い確率 20%。
- ・ 降水量は、多い若しくは少ない確率 30%，平年並みの確率 40%。
- ・ 日照時間は、多い確率 20%，平年並み若しくは少ない確率 40%。

〈向こう1か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率(%)〉

【気温】東北太平洋側	20	30	50
【降水量】東北太平洋側	30	40	30
【日照時間】東北地方	40	40	20

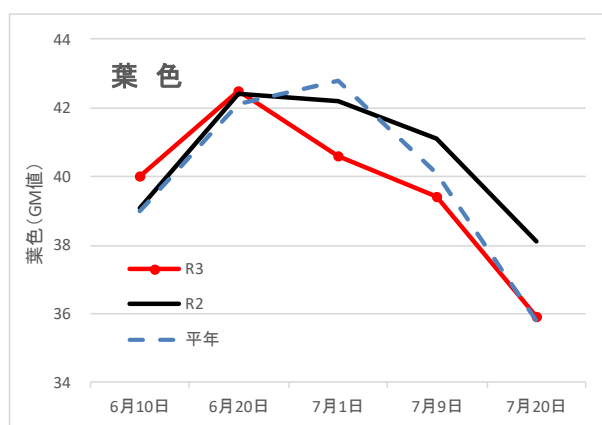
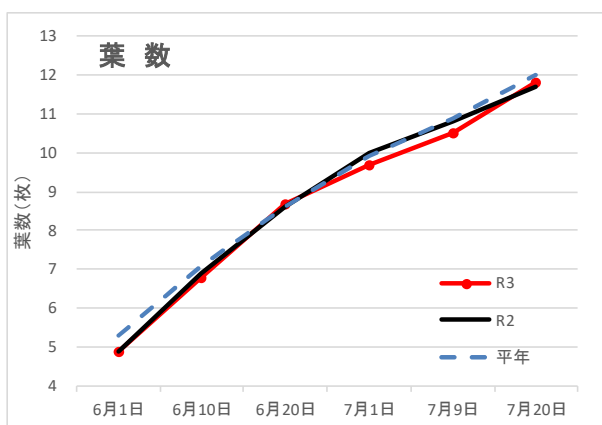
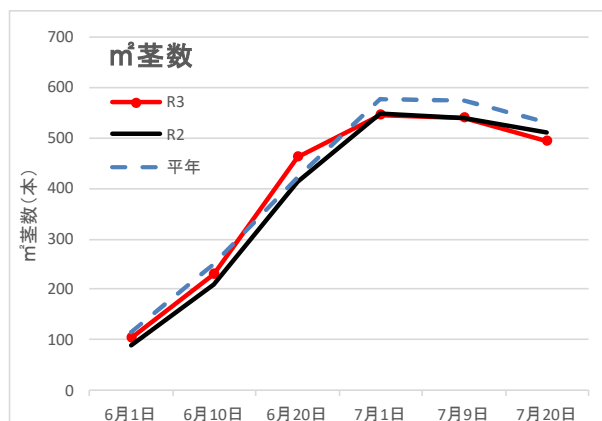
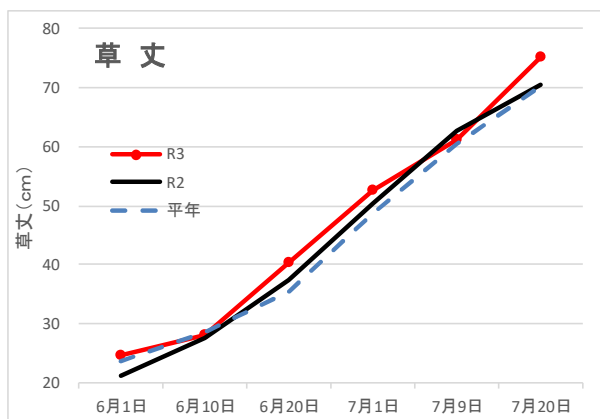
〈気温経過の各階級の確率(%)〉

1週目 東北地方	20	30	50
2週目 東北地方	20	30	50
3～4週目 東北地方	30	40	30

2 生育状況

(1) これまでの生育経過（宮城県 生育調査ほ ひとめぼれ+ササニシキ 30 地点の平均値）

- ・草丈は平年よりやや長めに推移し，7月20日調査では75.1cmで平年比107%であった。
- ・茎数は平年並み～やや少なめに推移し，7月20日調査では493本/m²で平年比93%であった。
- ・葉数は平年並み～やや遅かった。最終葉数は11.8枚で平年より0.2枚少なかった。
- ・葉色（GM値）は6月20日までは平年より高めに推移したが，7月1日から9日にかけて平年より低く推移した。最終の7月20日調査では，概ね平年並みであった。



(2) 出穂状況（宮城県内）

- ・出穂始期：7月26日で平年より4日早い。
- ・出穂期：7月30日で平年より4日，前年より7日早い。
- ・穂揃期：8月7日で平年より3日早い。

出穂状況(県全体)

区分	出穂始期 (5%)	出穂期 (50%)	穂揃期 (95%)
本年	7月26日	7月30日	8月7日
前年	8月1日	8月6日	8月12日
平年	7月30日	8月3日	8月10日
平年差	4日早い	4日早い	3日早い

3 今後の管理

(1) 病虫害防除

① いもち病

- ・ 8月12日から17日にかけての低温・寡照によって、下記のように「いもち」の感染好適条件（●が感染好適条件）が続いた（県病虫害防除所HPより）。
- ・ **葉いもちが多発したほ場では追加防除を検討するとともに、直播栽培等の出穂が遅いほ場では穂いもちの防除適期を逃さないように注意する。**

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	桃生	大衡	鹿島台	東松島	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
8/12	△	—	●	●	—	—	●	—	△	—	—	—	—	●	—	—	●	●	—	△
8/13	○	●	●	—	●	●	●	—	●	●	—	—	—	●	●	—	●	●	●	—
8/14	—	○	●	△	●	—	●	—	●	●	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—
8/15	△	○	○	○	●	○	○	△	○	—	●	—	○	○	—	—	—	—	—	—

② 斑点米カメムシ対策

- ・ 宮城県病虫害防除所による8月上旬の巡回調査では、水田内でのカスミカメムシ類の発生地点率は51.8%で平年より高く、すくい取り虫数は5.4頭で平年よりやや多かった。
- ・ 水田周辺に牧草地等があるほ場や、水田内にイヌホタルイが残草しているほ場でカスミカメムシ類が多い傾向であった。
- ・ 稲作情報2号で紹介した、大型の「クモヘリカメムシ」が近年、県南部と沿岸部を中心に発生が増加している。今年度も8地点で新たに確認されている（病虫害防除所HP参照）。未確認の地域でも今後被害が発生する恐れがあるため、注意が必要である。

(2) 刈取り適期の判定

- ・ 県内の出穂期は、平年より4日早い7月30日であった。8月第2半旬までは平均気温が平年を上回る日が多かったが、**8月12日から17日にかけて低温・寡照となり、やや登熟が緩慢になったと思われる。**
- ・ 8月19日発表の1か月予報によれば、気温が高い確率が50%であることから、高温傾向が見込まれるので、収穫準備は早めに行う。

① 出穂後の積算平均気温から判定する方法

表1 品種別の刈取適期の目安

品種名	出穂後の積算平均気温	出穂後の日数
ひとめぼれ	940~1,100℃	40~45日
ササニシキ	930~1,150℃	45~50日
だて正夢	1,020~1,060℃	50日前後
金のいぶき	1,050~1,150℃	50~55日
つや姫	1,000~1,200℃	50~55日
まなむすめ	960~1,050℃	45~50日
みやこがねもち	950~1,150℃	45~50日

表2 出穂後積算平均気温による収穫目安

アメダス地点	刈取り時期の目安 (出穂期7/30の場合)	
	ひとめぼれ	ササニシキ
築館	9/9~9/17	9/9~9/19
米山	9/9~9/16	9/8~9/18
古川	9/9~9/17	9/8~9/19
石巻	9/9~9/16	9/8~9/18
仙台	9/8~9/15	9/7~9/17
白石	9/9~9/17	9/8~9/19
丸森	9/8~9/16	9/8~9/18

※8月22日まではアメダス実測値、それ以降は平年値を使用

- 刈取適期の目安を表1及び表2に示す。出穂後の積算平均気温による収穫目安は、出穂期の翌日からの平均気温を加算して品種ごとの刈取適期を推定するものであり、気象庁HPから最寄りのアメダスデータを活用して計算できる。

- 8月22日現在、刈取り始期は前年より1～3日程度早い見込みである。

② 籾の熟色経過から判定する方法

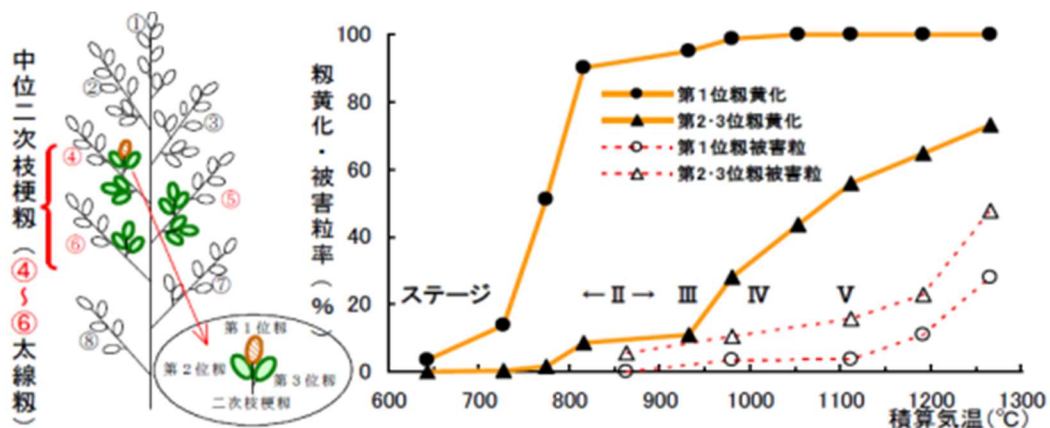
- ひとめぼれについては、「籾の熟色」から刈取適期を判断することもできる。標準的な穂には下図（左）のように8本程度の一次枝梗が付くが、**中位（④～⑥）の二次枝梗の第1位籾がほとんど（95%）黄化した時が「刈取り早限（積算平均気温で940℃程度）」に相当する。**

- ①の方法は、水稻の生育量や㎡当たり籾数、登熟期間の気象経過によってやや変動する。籾数が少ないと刈取適期が早まる傾向にある。

- 積算平均気温での判断が難しいときは、ほ場ごとに籾の熟色を観察して刈取適期を判定する。

成熟段階Ⅲ：第1位籾が殆ど黄化し(95%)，第2，3位籾が黄化開始(刈取り早限)
 成熟段階Ⅳ：第1位籾の黄化100%，第2，3位籾が30%黄化(積算気温1000℃程度)
 成熟段階Ⅴ：第2，3位籾が50%以上黄化(刈取り晩限)

} 刈取適期



- 「だて正夢」は、ひとめぼれと比較して出穂期で2日程度、成熟期で4日程度遅い品種である。収穫が早すぎる場合や遅すぎる場合には、玄米タンパク含有率が高まる傾向があるので、収穫は適期に行う。

- 「金のいぶき」は、ひとめぼれと比較して出穂期で4～5日程度、成熟期で10～17日程度遅い品種である。ひとめぼれより穂発芽しやすいので、積算気温を目安にして早めに刈り取る。

(3) 収穫作業

- 倒伏が始まっているほ場が散見される。穂発芽による品質低下が起きやすいので、刈取り早限に達したら直ちに収穫する。完全倒伏した部分は、刈り分けを行う。

- 高水分籾を収穫すると損傷が多くなるため、籾水分25%以下を目安に刈取りを行う。

(4) 乾燥調製

- 収穫した生籾を長時間放置すると発熱して変質米の原因になるため、刈取り後は速やかに乾燥機に張り込んで送風する。

- 水分測定の際は、測定サンプルに未熟粒が混じらないように注意する。また、こまめに水分測定を行い、過乾燥を防止する。仕上がり水分は14.5%から15.0%とする。